

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：9月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 主席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●9月都道府県別訪日外客数と訪問率の早期推計*

▶9月の関西2府8県別に訪日外客数(推計値)をみると

(表1及び図1)、福井県19人、三重県94人、滋賀県105人、京都府3,905人、大阪府4,597人、兵庫県766人、奈良県1,460人、和歌山県143人、鳥取県49人、徳島県32人となった。各府県の伸び率は前年同月比-99%程度で依然厳しい状況が続いている。

▶運輸局別では(表1)、北海道1,044人、関東7,029人、中部1,920人、近畿5,802人、九州1,154人となった。

▶9月の訪問率(推計値)を関西2府8県別にみると(表2及び図10)

福井県0.1%、三重県0.7%、滋賀県0.8%、京都府28.5%、大阪府33.6%、兵庫県5.6%、奈良県10.7%、和歌山県1.1%、鳥取県0.4%、徳島県0.2%となった。前月から訪問率が上昇したのは三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県であった。なお、福井県、滋賀県、徳島県は横ばいだった。

●9月発表データのレビュー

▶JNTO 訪日外客数推計値(表3及び図11)によれば、9月総数は13,700人(前年同月比-99.4%)となった。12カ月連続のマイナスだが、9月から一部の国でビジネス目的の

入国者の往来再開や在留資格をもつ外国人の再入国が緩和されたため、6カ月ぶりに1万人を超える水準となった。

▶国・地域別のトップ5は、中国が3,000人、ベトナムが2,700人、韓国が1,400人、タイが1,000人、台湾が800人であった。前年比の伸び率はいずれも90%超のマイナスとなっており、訪日外客の動向は依然厳しい状況である。

▶東アジアの伸び率をみると中国、台湾、香港は8カ月連続、韓国は15カ月連続のマイナス。日本政府は10月以降、韓国やベトナムとの間で短期・長期のビジネス目的の往来再開を決定した。また、防疫措置等の条件はあるが、ビジネス目的だけではなく留学目的などでの往来も順次再開されるため、今後訪日外客数の増加が見込まれよう。しかし、入国者数は1日あたり1,000人程度に制限されることに加え、観光目的での往来は引き続き制限されているため、訪日外客の大幅増加は期待しづらい。

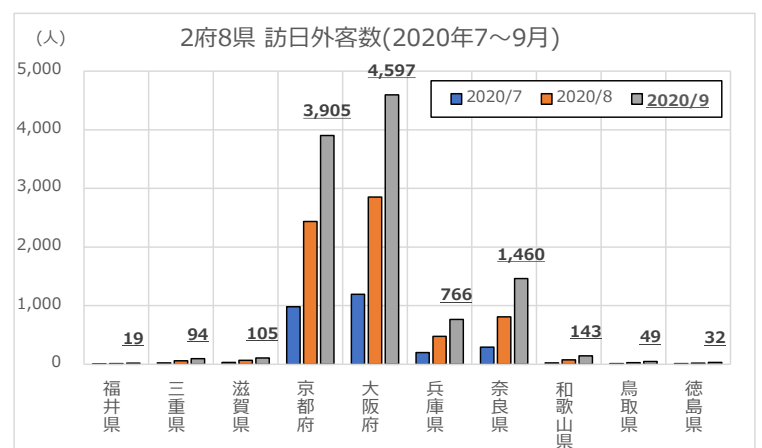
表1 都道府県別訪日外客数の早期推計表

訪日外客数	単位:人				
■府県ベース	2020/7	2020/8	2020/9	20Q1	20Q2
福井県	5	12	19	7,880	12
三重県	25	58	94	27,579	46
滋賀県	30	67	105	35,459	64
京都府	981	2,435	3,905	847,069	1,510
大阪府	1,193	2,854	4,597	1,315,911	2,214
兵庫県	201	474	766	220,632	378
奈良県	291	808	1,460	299,429	450
和歌山県	24	74	143	27,579	35
鳥取県	11	28	49	11,820	19
徳島県	9	20	32	15,759	23

■運輸局ベース	2020/7	2020/8	2020/9	20Q1	20Q2
北海道	237	602	1,044	450,677	659
関東	1,958	4,487	7,029	2,071,305	3,736
中部	487	1,192	1,920	442,506	820
近畿	1,493	3,624	5,802	1,364,549	2,529
九州	319	731	1,154	352,742	626

注:全目的(観光・レジャー目的以外も含む)の訪問率をもとに訪日外客数を推計している。なお、地方単位(運輸局ベース)で推計される訪問率と訪問者数は、地方内の複数訪問を1回とカウントしているため、都道府県の訪問者数を単純に合算した値とは異なることに注意。シャドウは実績値。

図1 都道府県別訪日外客数の3カ月比較図



注:数値は最新月の予測値。

* 早期推計は以下の手順で行われている。まず、四半期ベースの都道府県訪問率を月次化し、それを用いて時系列モデルを推計、その6カ月予測を行う。これに訪日外客数(JNTO)を乗じて、月次ベースの訪日外客数を推計している。訪問率の実績値が発表されるまでは、このルーティンが繰り返される。本手法は当研究所の日本経済月次予測で用いている超短期予測のアイデアを応用しており、詳細な推計方法については Trend Watch No.54(2019年5月)参照のこと。

トピックス 1

●9月関西国際空港：訪日外客数の動向

▶9月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**2,467人**で、伸びは前年同月比-99.6%減少した(図2及び図5)。9月1日より在留資格をもつ外国人の再入国が全面緩和されたこともあり、前月(1,615人)から増加した。なお10月以降、ビジネス関係者に加え医療や教育関係者など中長期の在留資格を持つ外国人に対して日本への新規入国が認められている。防疫措置の条件や1日あたりの入国者数の制限はあるものの、幾分増加が見込まれよう。

●経済ショックからの回復の比較：外需関連

▶**関西9月の輸出は引き続き改善の兆しがみられる。**輸出額は前年同月比-5.7%減少した。7カ月連続のマイナスだが、減少幅は4カ月連続で縮小(前月:同-8.7%)。対中輸出の回復と対米輸出の改善が影響した。一方、**輸入額は同-11.4%減少し、12カ月連続のマイナス**(前月:同-17.0%)。結果、関西の貿易収支は2,581億円と8カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+28.9%拡大した。また、貿易総額(輸出入合計)は同-8.3%減少した(前月:同-12.6%)。昨年9月を除けば、2018年12月以降連続して減少している(図3)。

▶地域別の貿易動向をみると(図4)、関西9月の対中輸出額は前年同月比+12.9%増加し4カ月連続のプラス。中国経済の回復に伴いプラス幅は拡大している(前月:同+7.1%)。一方、対中輸入額は同-8.1%減少し3カ月連続のマイナス。輸出増に寄与した品目は非鉄金属、プラスチックで、輸入減に寄与した品目は通信機、衣類及び同附属品であった。

▶9月の関空への訪日外客数は前年同月比-99.6%大幅減少し、7カ月連続のマイナス。2019年の2府8県の外国人消費額(確報ベース)は1兆2,127億円であるため(APIR推計)、9月のインバウンド需要の損失額は1,006億円(=12,127/12×関空への訪日外客数の減少率)と推計される。**結果、2-9月期インバウンド需要の損失合計は7,683億円となる。**

▶図5は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。COVID-19の影響は長期に及ぶため、しばらく厳しい状況が続こう。9月は再入国者に対する入国が全面的に緩和されたが、大幅な落ち込みが続いている。10月以降、ビジネス関連を中心とした外国人の入国緩和が行われる予定だが、観光目的の入国に対しては引き続き厳しい入国規制がされているため、訪日外客の急回復は期待しづらい。

図2 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。

2020年9月値は速報値(図5も同様)。

図3 関西 対世界貿易の推移

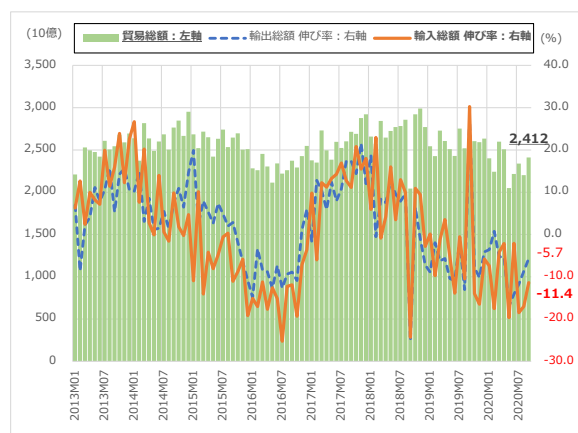
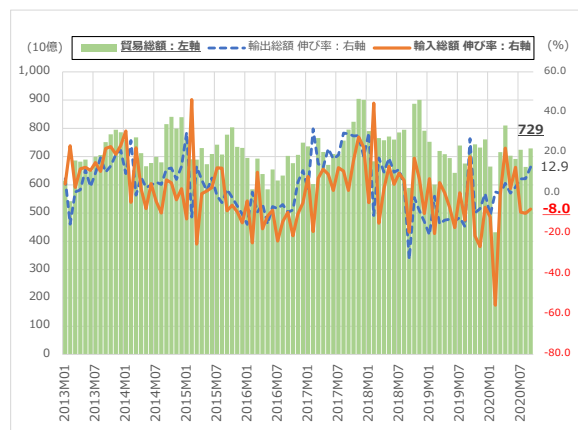
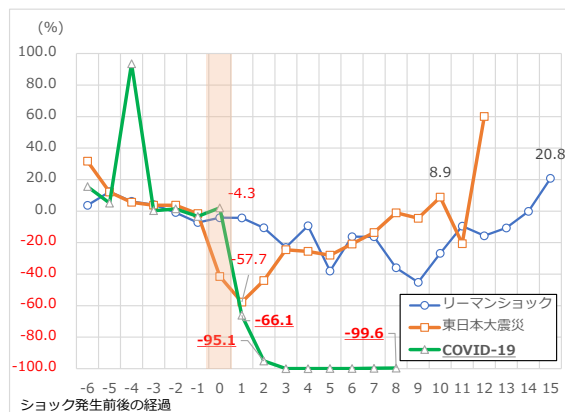


図4 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図5 経済ショックからの回復の比較



トピックス 2

●7月 延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶7月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は6カ月連続の前年同月比マイナス(同-64.7%)。マイナス幅は前月(同-74.4%)より幾分縮小したものの、大幅なマイナスが続いている。なお、7月22日よりGo To Travelキャンペーン(東京を除く)が開始された。今後、その動向に注意が必要である。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、3,679.9千人泊となり7カ月連続の前年同月比マイナス(同-50.4%)(図6)。府県別に延べ宿泊者数が多い順でみれば、大阪府が1,007.4千人泊(同-58.4%)、京都府が657.6千人泊(同-52.9%)、兵庫県が634.4千人泊(同-41.9%)、三重県が372.0千人泊(同-47.4%)、和歌山県が257.5千人泊(同-40.0%)、福井県が215.2千人泊(同-41.0%)、滋賀県が200.1千人泊(同-49.9%)、鳥取県が133.2千人泊(同-42.1%)、徳島県が122.1千人泊(同-39.0%)、奈良県が80.5千人泊(同-53.8%)であった(図7)。各府県とも経済活動の再開により、前月から宿泊者数は幾分増加したが、感染再拡大の懸念もされているため、水準は低調である。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、66.4千人泊となり6カ月連続の前年同月比マイナス(同-97.9%)(図8)。府県別に多い順でみれば、大阪府が39.9千人泊(同-97.7%)、京都府が10.4千人泊(同-99.0%)、三重県が8.7千人泊(同-79.1%)、兵庫県が3.6千人泊(同-97.2%)、和歌山県が1.0千人泊(同-98.4%)、鳥取県が0.8千人泊(同-95.6%)、滋賀県が0.7千人泊(同-98.0%)、福井県が0.6千人泊(同-90.2%)、徳島県が0.4千人泊(同-95.7%)、奈良県0.4千人泊(同-99.3%)であった(図9)。政府の水際対策の強化により訪日外客の入国制限が続いていることから、各府県で大幅な減少が続いている。

▶3-7月期の宿泊者数(関西2府8県ベース)の減少幅から国内旅行消費額の損失額を推計すると約1.1兆円となる(=Σ4.1兆円/12×関西の延べ宿泊者数の各月の減少率)。また、8月速報値を考慮した3-8月期の宿泊者数(全国ベース)の減少幅から国内旅行消費額の損失額を計算すると約6.6兆円となる(=Σ21.9兆円/12×全国の延べ宿泊者数の各月の減少率)。

図6 関西 日本人宿泊者数の推移

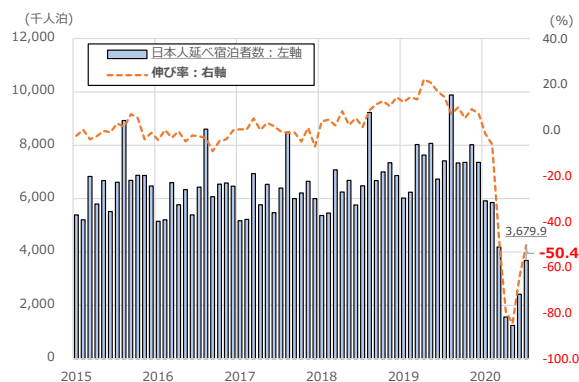


図7 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

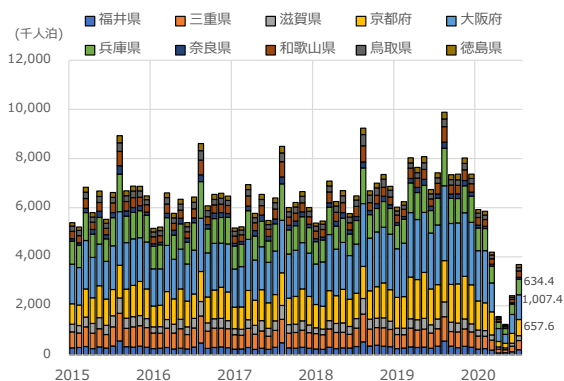


図8 関西 外国人宿泊者数の推移

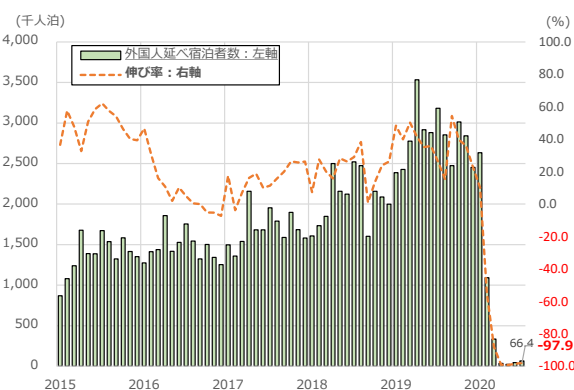
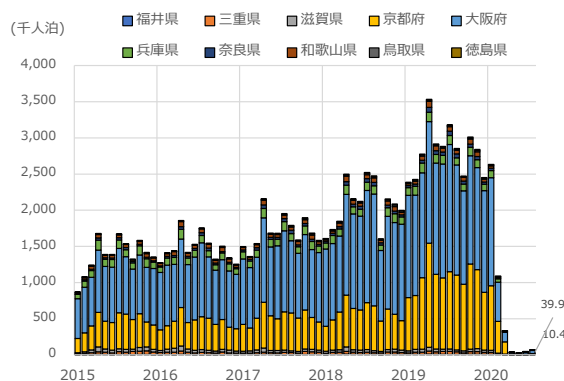


図9 府県別外国人延べ宿泊者数 推移



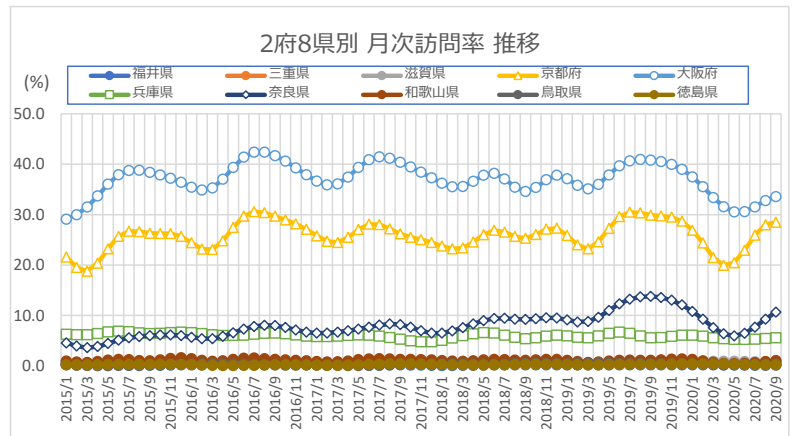
出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図6~9)

表2 月次訪問率の早期推計表

訪問率	単位:%				
■府県ベース	2020/7	2020/8	2020/9	20Q1	20Q2
福井県	0.14	0.14	0.14	0.20	0.15
三重県	0.65	0.67	0.69	0.70	0.64
滋賀県	0.80	0.77	0.77	0.90	0.85
京都府	25.94	27.99	28.50	21.50	22.92
大阪府	31.54	32.80	33.55	33.40	30.60
兵庫県	5.31	5.45	5.59	5.60	5.23
奈良県	7.69	9.28	10.66	7.60	6.45
和歌山県	0.64	0.85	1.05	0.70	0.49
鳥取県	0.29	0.32	0.36	0.30	0.26
徳島県	0.24	0.23	0.23	0.40	0.28

■運輸局ベース	2020/7	2020/8	2020/9	20Q1	20Q2
北海道	6.26	6.92	7.62	11.44	6.76
関東	51.77	51.58	51.31	52.57	51.99
中部	12.87	13.70	14.02	11.23	11.89
近畿	39.48	41.65	42.35	34.63	36.72
九州	8.45	8.40	8.42	8.95	8.56

図10 月次訪問率の推移

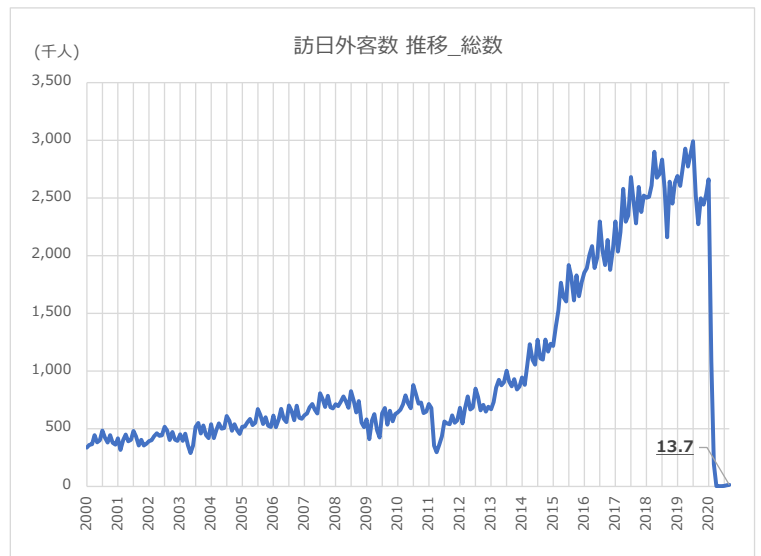


注: シャドウは実績値

表3 2020年9月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年 9月	2020年 9月	伸率(%)	2019年 1-9月	2020年 1-9月	伸率(%)
総数	2,272,883	13,700	-99.4	24,417,820	3,973,200	-83.7
総数(韓国・その他除く)	1,944,801	9,880	-99.5	18,531,851	3,313,070	-82.1
韓国	201,252	1,400	-99.3	4,934,315	480,200	-90.3
中国	819,054	3,000	-99.6	7,402,578	1,028,300	-86.1
台湾	376,186	800	-99.8	3,736,530	691,100	-81.5
香港	155,927	90	-99.9	1,660,886	345,060	-79.2
タイ	62,057	1,000	-98.4	868,443	216,800	-75.0
シンガポール	29,147	30	-99.9	284,644	54,850	-80.7
マレーシア	28,778	200	-99.3	309,491	75,100	-75.7
インドネシア	25,021	300	-98.8	282,269	70,300	-75.1
フィリピン	37,758	100	-99.7	402,119	104,600	-74.0
ベトナム	38,325	2,700	-93.0	376,043	115,900	-69.2
インド	15,895	400	-97.5	135,365	23,600	-82.6
豪州	60,498	90	-99.9	449,228	142,890	-68.2
米国	127,190	600	-99.5	1,277,007	215,900	-83.1
カナダ	28,525	70	-99.8	269,147	52,930	-80.3
メキシコ	6,282	10	-99.8	51,367	9,390	-81.7
英国	49,580	100	-99.8	290,419	50,200	-82.7
フランス	26,530	100	-99.6	252,325	41,700	-83.5
ドイツ	22,768	90	-99.6	177,104	28,860	-83.7
イタリア	13,354	70	-99.5	124,492	13,280	-89.3
ロシア	10,454	60	-99.4	83,720	20,890	-75.0
スペイン	11,472	70	-99.4	98,674	11,420	-88.4
中東地域	8,678	200	-97.7	67,815	7,400	-89.1
その他	118,152	2,220	-98.1	883,839	172,530	-80.5

図11 訪日外客数 推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)、2020年10月21日付より筆者加工